

憲法改正・政権支持等に関するネット利用の〈極性化〉効果の検証

—— 政治・社会意識と情報行動に関する共同実証研究(2) ——

大阪大学 辻 大介

1 目的 ネット上では意見・態度の似た者がつながりやすく、もっぱら同質的な情報が流通する対人ネットワーク——「エコーチェンバー」(Sunstein 2017)——が形成されることで、その集団のもつ先有傾向が〈極性化 polarization〉し、ひいては集団間のアグリゲート・レベルでは意見が賛否の両極に〈分極化 bi-polarization〉するのではないかと指摘されてきた。これに対して世界各国で実証研究が進められてはいるが、その結果は必ずしも一致をみておらず、例えば日本でも田中・浜屋(2018)のウェブ調査のように分極化に否定的な結果を導いた研究もある。しかし、そこで分極化の指標として用いられている尺度の構成法は(世界的にもデファクトスタンダードとなっている方法ではあるものの)多分に問題を含んでいる(辻・北村 2018)。そこで本報告では、より適切な解析手法と考えられる一般化順序プロビットモデルを用いて(辻・齋藤 2018)、憲法改正等の政治的イシューへの賛否、政権支持、政党や政治家に対する好悪などについて分析した結果を報告する。

2 方法 分析には2018年11月13~22日に実施したウェブ質問紙調査のデータを用いる(2018~20年度科学研究費補助金「情報環境の構造転換にともなう世論の〈極性化〉——その実態とプロセスの解明」課題番号18H00926による)。NTTコムリサーチおよび提携事業者の登録モニター17~65歳を対象とし、5181ケースの有効回答を得た(うち、2017年11月調査からの継続パネルサンプルが2672ケース、新規追加サンプルが2509ケース)。データ解析にはStata 15.1を用い、一般化順序プロビットモデルによる推定はgologit2コマンドでlink(probit)オプションを指定して行なった(Williams 2016)。

3 結果 右表は、a)~h)の各項目を従属変数として(上4項目は賛否を5件法で、下4項目は好き嫌いを7件法で回答)、一般化順序プロビットモデルで分析した結果から、ネット利用量の効果を抜粋したものである。統制変数には、テレビ視聴量、新聞講読量、政治関心、属性変数(性別・年齢・教育年数・主観的経済状況)を投入し、属性変数については平行性の仮定をおいた。+は肯定または好きの向きへ、-は否定または嫌いの向きへ従属変数を変化させる効果を意味する(符号の数は3つが $p<.001$ 、2つが $p<.01$ 、1つが $p<.05$ の有意性を表す)。

| | ← 肯定 | | | 否定 → | | |
|------------|------|------|------|------|-----|-----|
| a) 安倍内閣支持 | ++ | + | n.s. | n.s. | | |
| b) 憲法改正 | +++ | +++ | + | n.s. | | |
| c) 移民受け入れ | n.s. | n.s. | --- | --- | | |
| d) 原発再稼働 | +++ | ++ | n.s. | n.s. | | |
| | ← 好き | | | 嫌い → | | |
| e) 安倍晋三 | + | + | + | n.s. | - | -- |
| f) 自民党 | + | + | n.s. | - | -- | --- |
| g) 立憲民主党 | n.s. | n.s. | -- | --- | --- | --- |
| h) 脱原発市民団体 | + | n.s. | n.s. | --- | --- | --- |

ネット利用は、a)安倍内閣の支持派をより強い支持に向かわせ、b)憲法改正やd)原発再稼働を肯定する方向へ、c)移民の受け入れを否定する方向への効果をもつ。効果に濃淡はあるものの、おおむね右派的な単方向への効果といえよう。他方、e)安倍首相、f)自民党、h)脱原発を主張する市民団体に対する好悪については、好感派と反感派をそれぞれの極に向かわせるような分極化効果が認められる。このことは、ネット利用が右派-左派の「意見」対立をおしなべて分極化するわけではないこと、むしろ好悪のような「感情」要因が分極化の起点となっている可能性があることを示唆しているように思われる。

文献 Sunstein, C., 2017, *#Republic*, Princeton University Press./田中辰雄・浜屋敏, 2018, 『ネットは社会を分断するのか——パネルデータからの考察』富士通総研経済研究所研究レポート No.462./辻大介・北村智, 2018, 「インターネットでのニュース接触と排外主義的態度の極性化」『情報通信学会誌』36巻2号, pp.99-109./辻大介・齋藤僚介, 2018, 「ネット利用による意見・態度の〈分極化〉を検証する」第91回日本社会学会大会一般研究報告./Williams, R., 2016, *gologit2 documentation updates*.(<https://www3.nd.edu/~rwilliam/gologit2/gologit2.pdf>)